

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)/2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西濃運輸株式会社豊川支店倉庫棟	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊川市本野ヶ原三丁目87の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年2月 予定	評価の実施日	2024年2月13日
敷地面積	5,530 m <sup>2</sup>	作成者	戸田建設株式会社名古屋設計室-緑建築士事務所 徳々木 裕希
建築面積	3,152 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月13日
延床面積	9,153 m <sup>2</sup>	確認者	戸田建設株式会社名古屋設計室-緑建築士事務所 徳々木 裕希

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 74%  
③上記+②以外の 74%  
④上記+ 74%

排出量: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性: N.A. 耐用性: 3.0 対応性: 4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

生物環境: 1.0 まちなみ: 2.0 地域性: 2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の: N.A. 自然エネ: 3.0 設備システ: 5.0 効率的: 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源: 2.2 非再生材料の使用削減: 2.9 汚染物質回避: 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化への配慮: 4.0 地域環境への配慮: 2.9 周辺環境への配慮: 3.2

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

4.0

#### ③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積): 0.0 %  
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積): 0.0 %

#### ②資源の有効活用

3.3

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>: なし  
<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>: なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減  
③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
西濃運輸株式会社豊川支店倉庫棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>					0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり					0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.45	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減					-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	F.T.Pile構法等の採用	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上材の分離が容易である	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	4.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率74%	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮					0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	駐車スペースを確保し車両出入時の混雑を避けた計画	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

四日市運輸株式会社豊川支店倉庫棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 西濃運輸株式会社豊川支店倉庫棟

計画上の配慮事項	
総合	・高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO2排出量の低減に努めている。
Q1 室内環境	・評価対象外
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	・周辺の街並みに合わせた外部仕上げに配慮している。
LR1 エネルギー	・全面的なLED照明の導入など、高効率な設備システムを導入することで省エネルギー化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。
LR3 敷地外環境	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。
その他	-